推薦文―③　Mr. 三好 太郎（1991 年・経済学部卒，三菱ガス化学）

第２期・ミニ MBA 塾を受講した三好と申します。私は９１年経済学部卒ですので、募集要項にある理工系ではないのですが、東京六甲クラブのメールマガジンかホームページを見て関心を持ち、「文系ですけどいいですか？」と問い合わせ、受講許可を頂いた者です。
月に１回、補講もありますので、だいたいは出席できましたが、出張や会議等で出席できない月もありました。それでも、一年間、大住先生と塾の仲間と楽しく学ぶことができました。
大住先生はプロフィールにあります通り、サラリーマン生活を長くやられた方です。若い頃にバークレーでしっかり理論を身につけて来られ、それを活かした仕事を残して来られた方です。私は、そういう方の話を聴きたかったのでこの塾に参加しました。
私たちの普段の仕事の中で、理論と現実がマッチしないことは、実際にあると思います。その時、マッチしないことについて「しょうがないな」と妥協し、思考を停止してしまうだけなのか、「本来はこうあるべきだ」と自分で理論を元に現象を整理して、いつかはその矛盾を解消すべく、力をつけていこうとするのかで、同じ仕事を続けるにしても違って行くのではないかと思います。
大住先生もサラリーマン生活の中で、そういう矛盾をたくさん経験されてきたと思います。
私は、そういう人生の先輩から理論とナマの話を学びたいと思い、塾の扉を叩きました。
MBA の理論は会社をとりまく様々な現象を腑分けするツールだと思います。
ツールをうまく使いこなした実例を知りたいと思っていました。
期待以上に先生からは多くのご示唆を頂き、また塾の仲間の煩悶を知ることもでき、有意義な一年を過ごすことができました。
実は今、転勤でニューヨークにおります。日系企業ですので、会社の仕組みはニューヨークにあるとは言え、日系企業の仕組みで動いています。ロジカルに物事が決まることよりも、空気が支配する日系企業であることに変わりはありません。そんな中での「おや、おかしいぞ」を感じながら、先生から頂いたテキストの英語版を、朝、出社時に少しずつ読みながら学びを継続しています。
とっぷりと会社に浸かっている方に、違う視座を与えてくれるミニ MBA 塾をお薦め致します。

推薦文―④　**Ms. 西田 衣里**（1998 年・発達科学部，大阪市大・修卒，リクルート・スタッフィング）

私は、社内で人事担当として 10 数年のキャリアを積み、経験年数が一番長くなる中、自分の経験をベースとした判断軸だけでは限界が来るのでは？と漠然と考えていたところに、第 2 回ミニ MBA 講座の案内を目にしました。

文系出身なので、受講資格に該当していないのでは、という不安を感じつつも、月 1 回の講義で経営を体系的に（しかも格安で）学べることに魅力を感じ、受講を希望しました。

私自身が受講して良かったと感じていることを三点お伝えします。

＜体系的にベーシックな理論が学べること、また、今後の学びの糸口も学べること＞

毎講義のテーマ毎に、必要なエッセンスが凝縮されたテキストを頂けるので、1 年間を通して受講することで、全体像をつかむことができました。一度の講義で詳細に理解することは難しくても、何がわからないなのか（必要なのか）がわかりましたし、テーマ毎にリーディングアサインメントに加えて、大住先生の目で精査された参考文献を紹介して頂けるので、どこに情報を取りに行けば良いのかがわかりました。

＜様々な視点・知見を得られること＞

MBA を学ばれ、海外・国内のビジネスの場で実践してこられた大住先生のご経験はもちろん、学生時代の専攻やビジネスキャリア、業種・職種が異なる分野で活躍されている塾生のみなさん、時には 1 期生の方ともご一緒させて頂くことで、それぞれ異なる環境で実際に経験されたこと、今まさに仕事の場で起きている課題や悩みを共有したりと、日常の仕事の延長線上では得られない視点、知見を得ることができました。

＜学ぶ習慣（サイクル）ができること＞

ミニ MBA 塾の講義は、講義前にリーディングアサインメントと事前に配布される講義テキストを学習する→講義の場で大住先生をはじめ、メンバーの実践・経験の話で肉付けする→テーマに沿ったリポートを作成してメンバーと共有する、というサイクルで進みます。

当初は慣れないこともあってペースを掴むことに苦労しましたが、1 カ月に 1 回という講義のペースが丁度良く（どうしても都合がつかない時は補講もして頂けます）、リポートをメンバーと共有する、という緊張感もあって、事前・事後学習を習慣化することができました。

ミニ MBA 塾での学びが実践の場に活かせている実感はまだまだですが、思考や判断の一つの拠り所として、今後に確実に役立つ実感を持っています。

興味はあるけれど…と悩まれていらっしゃる方には、ぜひ受講されることをお薦めします。第 3 期生のみなさんとご一緒できる機会を、楽しみにしています。